

# 1. 評価結果概要表

作成日 H19年11月9日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4270202924		
法人名	医療法人社団創平会 厨内科医院		
事業所名	グループホーム さしかた		
所在地	〒859-3242 長崎県佐世保市指方町2216-1 (電話) 0956-27-1020		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1F		
訪問調査日	平成19年10月31日	評価確定日	平成20年1月30日

【情報提供票より】(平成19年10月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17年 10月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	15 人 常勤 13 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 15 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り 3階建ての 2階 ~ 3階部分
------	--------------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 100 円			

### (4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	7 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.2 歳	最低	75 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	くりや内科・村上医院・佐世保中央病院・川原歯科
---------	-------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ハウステンボス均衡の豊かな田園風景の中にある当ホームは、玄関周りに綺麗な小花の植え込みがあり、訪れる者をほっと和ませている。運営者・管理者との連携は緊密で質の向上には、積極的かつ意欲的である。又、運営母体の医院が隣接し、その医療連携が家族の大きな安心に繋がっている。設立まだ2年とは思えないほど、その住まい・入居者・職員が馴染んでいる。経験の浅い部分については今後も試行錯誤、模索しながらになると思われるが、その意欲と実践が大いに期待される。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	職員会議で検討し、改善計画シートが作成され、できることから早急に取り組み、おおむね改善されている。特に、入居者の日々の生活を支えるケアプランと、それを日々の実践に生かした記録のあり方はよく改善されていた。ただユニット間で取り組みに格差があり、それぞれのよいところをお手本にしながら、融和を図っていくことが今後の課題として残っている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、職員それぞれに項目を割り当てられ、それを管理者が統一して集約されている。職員は評価を一つの節目と捉え、日頃のケアや実践の振り返りとしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	会議はこれまで3回開かれ、会毎に、運営推進会議の目的・事業所の概要・ホームの状況等、グループホームの現状での理解を深めるような取り組みがなされている。今後は、その時々に出された参加者の意見を集約して活かす取り組みや、評価の取り組み・評価後の改善への取り組みを会議でモニターしてもらうなど、運営推進会議と評価を結びつけ、質確保を図っていくことに期待する。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	ご家族来訪時や、電話連絡時には、その時々に入居者の様子が丁寧に報告され、ご家族からの要望や意見の聴取に努めている。家族会が年2、3回開かれ、運営推進会議には毎回、家族会会長・副会長の出席があり、公での意見交換の場もある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会には、運営者の参加があり、地域の行事(運動会、茶市、イベント等)には、積極的に参加している。地域活動の、カラオケ教室・短歌教室への入居者の参加には、送迎の支援があり、地域の方々へは、外出の折などに挨拶や話しかけるなど、地域に馴染む努力が積み重ねられている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「和やかな雰囲気の中で、できる力を発揮し、生き活きた生活を送りましょう」というこれまでの理念が掲げられている。しかし、新たな制度の地域密着型サービスとしての役割を目指した内容までには至っていない。	○	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、地域の中でその人らしく生活する事を支えるケアの具体的なイメージを、これまでの理念に盛りこむなど、見直しや検討に期待する。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、毎朝の申し送り時に唱和されている。職員は、入居者がどうしたら「和やか」でいられるかをイメージしながら、日々のケアを実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や、地域行事に積極的に参加しており、外出の折の地域の方々への声掛けや挨拶も励行されている。今後老人会や婦人会、子供会との交流も視野に入れているが、更なる高みを目指す意味において、地域の高齢者等の暮らしに生かす視点や行動にまで及んでいない。	○	入居者のプライバシーや、不安には十分配慮しながら、事業所で培ってきた成果を地域の高齢者のケアサービスの推進に還元していくような取り組みに期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価は職員会議で検討され、改善計画シートを作成し、できることから改善に取り組んでいる。評価の意義も管理者より職員に伝えられ、質の改善に意欲的である。今回は、職員へ項目の割り当てを行ったが、次回からは、その後一項目ごと全員に読み上げていくような取り組みへの反省もあった。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	これまで3回の会合が開かれていて、事業所代表、自治会長や民生委員、家族会代表などが参加している。しかし、自己評価の内容を説明する事や外部評価の結果は公表されていない。	○	参加メンバーには子ども会、老人会、婦人会、地域包括支援センターや行政の職員等、幅広い参加に期待する。又、評価の取り組みや、評価後の改善への取り組みを運営推進会議でモニターしてもらうなど、評価と会議を結びつけ、質確保に向け一体的に生かしていくことの相乗効果に期待する。

グループホーム さしかた

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	6月の会場として提供したグループホーム協議会主催の勉強会には、市職員の参加があったが、考え方や実態を共有するまでには至っていない。	○	新制度の地域密着型サービスでは、事業所も行政(市)も考え方や運営・サービスについて試行錯誤しながらより良いあり方を模索していく事が望まれる。考え方や実態を、市担当者によく知ってもらう関係作りを積極的に行い、協働関係の構築と継続に期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族来訪時は、入居者の状況や、暮らしの様子などが伝えられている。毎月の便りは写真入で行事等の様子がよく分かり、ご家族にも喜ばれている。個人の折々のスナップは、以前はアルバムに綴じていたが、一枚張りにしてそれぞれの居室に貼り、家族訪問時の話題の提供にも寄与している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	敬老会や新年会とあわせて開かれる家族会では、家族同士の交流があり、意見交換もされる。又、運営推進会議には家族会会長、副会長の参加があり、公の場での発言や意見公聴の機会もある。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には、各ユニットの職員を固定化し、顔なじみの職員によるケアを心がけている。しかし、職員の退職が一時期に集中し、顔馴染みの職員で継続的に支えられているとは言い難い。	○	集中した職員交代は入居者・家族が不安や不満を持ちやすい部分で、離職を最小限に抑えるための努力や工夫に期待する。
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じた研修等の参加は推進されているが、介護度の高い入居者には、浴槽への入浴方法や、車椅子での移動・移乗等福祉用具の適正使用や、専門的介護技術の習熟までには及んでいない。	○	PT・OT等による、この方にはどのような方法で介助すると「介護する側・される側がどんなに楽か」の専門的技術の習熟が急がれる。また福祉用具の適正使用(身の回りのものでも工夫しながら)により、残存能力を引き出す努力が望まれる。又、介護技術の向上にはライブラリー等の、ビデオ学習などの導入にも期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現段階でのグループホーム協議会では管理者の交流があるが、職員間交流については、各部門担当者間交流の検討がなされている。親睦交流のためのボーリング大会への参加がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>併設事業所のデイサービス利用者や、ご家族が見学に来られ、入居に至る事が多い。入居初期、昼夜逆転で夜間不穏傾向にある時は、お茶を共に飲んだり、話したり、聞いたり、御本人が不安や不信を抱かないでいように、職員が見守り、早めの察知に努め、対応している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者演奏のエレクトーンの奏でる音楽には、他の入居者・職員共々聞き入り、ひと時癒された豊かな時間が共有された。入居者の方の自ら明るくする事で自分の今の居心地を変えていけるという前向きな生き方には感銘を受けている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>夜間不眠傾向にある時は、お茶を飲むなど寄り添いながら、話を聞いたりしている。ユニット間で入居者の介護度に相違があり、比較的自立度の高いユニットでは思いや、意向が把握しやすいが、レベル低下傾向にあるユニットとでは把握に差が見られる。</p>	○	<p>その方の好きだった事、興味を示す事など、家族や関係者より聞きだし、記録しながらその方の興味へ繋げていく努力に期待する。(例えば、囲碁が好きであれば、相手がいないとあきらめるのではなく、老人会や地域に来てくれそうな人がいないかあたってみる等)</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は、ケアプラン会議のアセスメント書式が大幅に改善され、現在の個性や希望、身体状態などを記録しやすくなり、ご本人や、ご家族の希望や要望を取り入れながら、個別具体的に作成されている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的な見直しはされているが、重度化、状態変化時などは、日々の対応に追われて見落とされがちである。</p>	○	<p>介護計画は、家族の要望や状態変化に応じて、ご家族、必要な関係者と話し合い、臨機応変に、現場で実践的な対応ができるよう見直しすることが望まれる。</p>

グループホーム さしかた

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	音楽演奏を職業としていた方のために、併設事業所のデイサービスセンターにあったエレクトーンを借り受け、いつでも弾けるようにと個別の支援に繋げている。又、運動会の帰りに、外食を楽しんだり、みかんドームにドライブしたりとそれぞれの希望に応じた支援がある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	運営母体の病院を家族了解のもと主治医とし、従来のかかりつけの医療機関への受診も希望に応じ、家族の協力の下、状況に応じた支援がなされている。又、病院で家族と待ち合わせる場合もある。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末を迎える看取りについては、その状況の都度、適切に対応がなされている。しかし書面の準備や、家族等との重度化・終末を迎える意向の把握、事業所の統一した方針等が早い段階から話し合わせられ取組まれているとは言い難い。	○	重度化・終末期に伴い、事業所が対応しうる最大のケアについて、入居者の希望に沿い、ゆっくりとした終末を迎えられる様に、比較的早い段階に入居者・家族から聞き取りを行なうことが望まれる。又、事業所方針等、説明した医師確認書等を用意するなど、入居者・家族がその時になっても、納得のいく終末を迎えられるように取り組んでいく事に期待する。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の入居者への対応は丁寧で優しく、誘導の声かけやさりげない言葉かけは、入居者を尊重した様子であった。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の前向きに生活するお話や、バスガイドをされていた入居者の敬老会での出番作り、職員・家族を乗客に見立てた模擬バスの設定等、希望に沿った支援がなされている。		

グループホーム さしかた

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味付けや、盛り付け、並べ方の工夫があり、職員も同じものを、一緒にいただき、食事を楽しくする雰囲気作りの工夫があった。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一日置きの入浴日で、朝入りたい人、ぬるめのお湯が好きな人、一番風呂が好きな人など、希望に応じ午前・午後と対応している。入浴日でない日は、清拭・足浴の支援がある。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、得意のエレクトーン、ハンカチで製作するお人形、折り紙細工の製作、気晴らしの外出支援等の場面が作り出されている。地域のカラオケ・短歌教室への送迎の支援もある。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節(花見・初詣・お寺参り)や地域(茶市・運動会・公民館祭り等)の行事など、本人の気分や希望を考慮し、天気の具合など見ながら外出の支援が行われている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中鍵はかけられていない。エレベーターには、「止まる、ドアが開く」など、大きな声の自動案内や、合図の音が聞こえ、安全が促されていた。職員は入居者の行動パターンを把握し、見守りの支援に繋げている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会い訓練は年2回計画され、消防署・駐在所・近隣地域・自治会の協力が得られている。又、毎月の避難訓練は、毎回想定を変えて取り組んでいる。さらに、台風・水害などの自然災害も想定した取り組みも希望する。		

グループホーム さしかた

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年2回、嗜好調査が行われている。バランスのよい献立で、刺身の苦手な方には、煮つけたりと代用食が用意されている。飲み込みの不自由な方には、刻んでとろみをつけたりと工夫される。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りは、小花のプランターで彩られ、室内は花瓶に生けられた綺麗な花・壁面の絵画が随所に飾られ、クリスタルに壁飾りなど、居心地のよさが感じられた。リビングには大きなソファがゆったりと置かれ、入居者は気持ち良さそうに寛いでおられた。又、自家製の大きな日めくりの暦があった。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、それぞれに好みや馴染みのある筆筒や椅子、TV、引き出しなどが持ち込まれ、その人らしく花や絵などが飾られていた。状態により、畳敷きにしたり、ベッドが使いづらいと床敷き用に設えてあるなど居心地よくする工夫がされていた。		